

日本の大学図書館における 機関リポジトリの状況について - 千葉大学での取り組みを中心に -

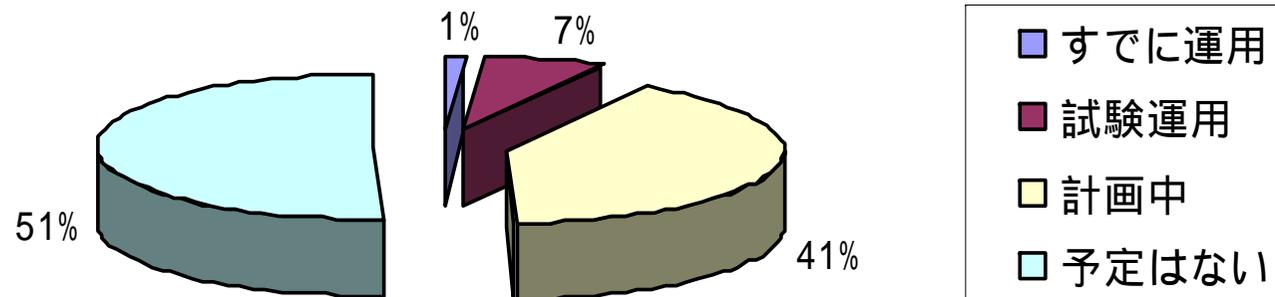
千葉大学附属図書館

尾城 孝一

ojiro@ll.chiba-u.ac.jp

日本の国立大学の状況

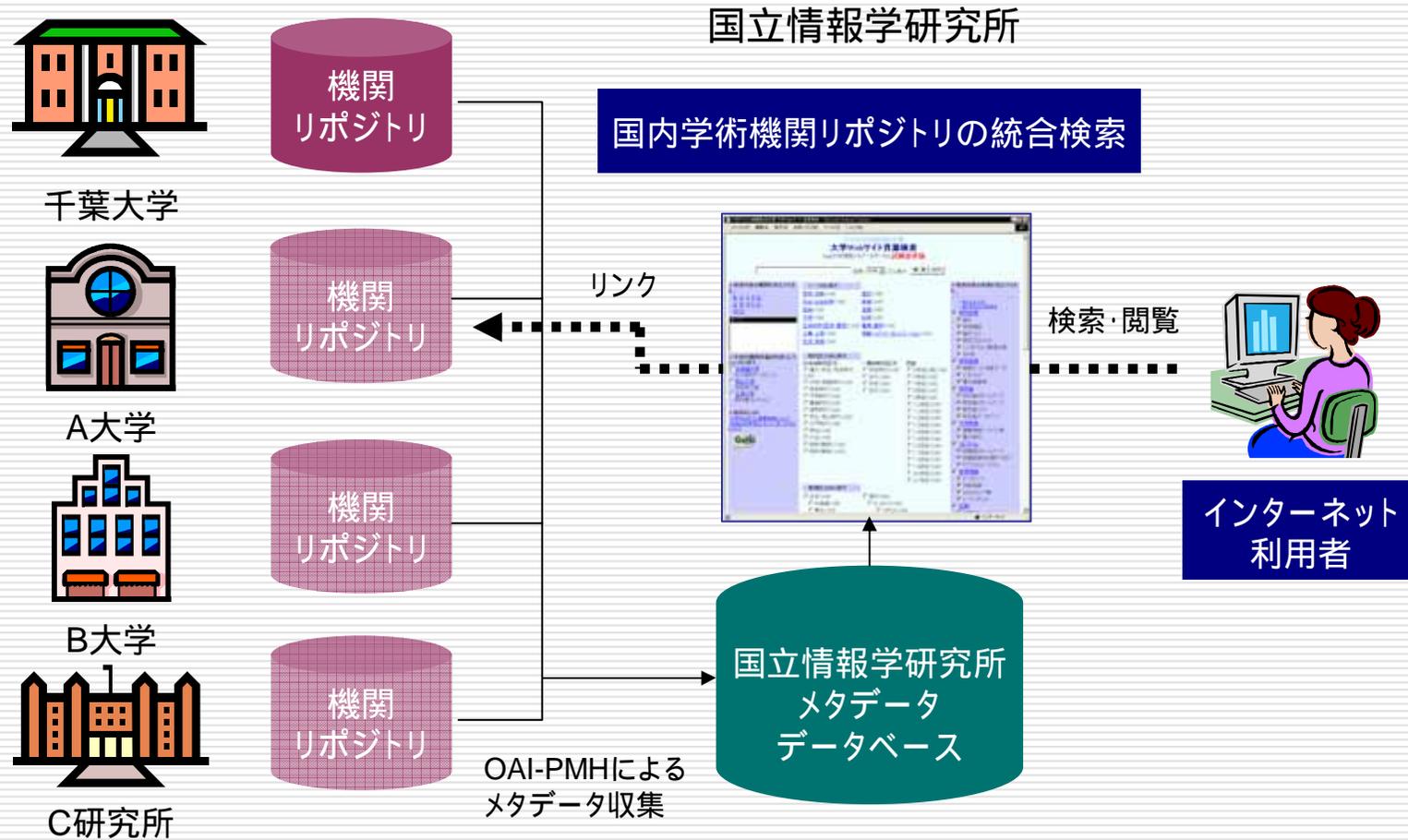
すでに運用	1大学
試験運用	6大学
計画中	35大学
予定なし	43大学



プロジェクト

- 学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト(国立情報学研究所)
 - オープンソースの学術機関リポジトリ構築ソフトウェアの各大学における試行運用を通じ,その構築・運用に係る技術情報の蓄積・公開を進めていく
 - 北海道大学,千葉大学,東京大学,東京学芸大学,名古屋大学,九州大学
- 学術情報委員会デジタルコンテンツ・プロジェクト(国立大学図書館協会)
 - 機関リポジトリのモデル構築と普及・促進

機関リポジトリのネットワーク



千葉大学学術成果リポジトリ

(CURATOR: Chiba University's Repository for Access To Outcomes from Research)

<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/>



経緯

- 平成14年度
 - 館内ワーキンググループの設置
 - 国内外の動向調査
 - 学内教官を対象としたアンケート調査実施
 - プロトタイプ・システムの開発着手
- 平成15年度
 - 「学術情報発信に関する懇談会」
 - 附属図書館長の下に「学術情報発信のための協力者会議」設置
 - 運用方針の策定, システムの改良
- 平成16年度
 - 附属図書館運営委員会の下に「学術情報発信専門委員会」設置
 - 学内合意
 - 正式運用開始(3月～), 公開(7月1日予定)

システムの概要

□ ハードウェア

- DELL PowerEdge 600SC (メモリ1G, HD80G)

□ リポジトリ・ソフトウェア

- 独自開発(外注)

□ 実装機能

- 利用者管理
- コンテンツ登録(アップロード)
- メタデータ更新
- 検索・利用
- OAI-PMHリポジトリ機能

コンテンツ件数

□ 資源タイプ

- プレプリント(11)
- テクニカル・レポート(40)
- 会議発表論文(3)
- 紀要論文(495)
- 雑誌掲載論文(34)
- 単行書(1)
- 単行書の章(17)
- 教材(10)
- その他(70)

□ 言語

- 日本語(541)
- 英語(129)
- ドイツ語(7)
- 中国語(2)
- フランス語(1)
- スペイン語(1)

(2005年3月18日現在)

構築・運用に係る諸問題

- 学内合意形成
- システム構築
- 運用指針の策定
- 登録の促進

正のスパイラル



現状

- Institutional Archives Registry (Eprints.org)
 - 394リポジトリ(2005.3.18現在)
- DSpaceのダウンロード数
 - 15,500回以上
- 既存リポジトリのコンテンツ数
 - PALS Pathfinder Research on Web-Based Repositories: Final Report(2004.1)
 - 45のリポジトリの収録コンテンツ数の平均1,250, メジアン(中央値) = 290

登録促進

- いかにしてコンテンツで満たすか？
- 学内刊行物は比較的容易
 - 紀要, 学位論文, 科研費報告書
 - これまでにも多くの実例あり
- 難しいのは, 査読済み論文
 - しかし, これが集まらないと学術コミュニケーションの变革に寄与できない

障害

- インセンティブの欠如
 - 登録のメリットは？
 - 登録しなくても何のペナルティもない
- 登録行為に対する抵抗感
 - 手間がかかる
 - 時間がない
- 著作権に関する懸念
 - (特に学術誌掲載論文の場合) 登録する権利があるのか？

方策

- インセンティブの欠如
 - アメとムチ
- 登録行為に対する抵抗感
 - 使いやすい簡易な登録インターフェースの提供
 - 既存データの活用(業績, 評価データベース等からの流用)
 - 図書館員による登録支援
- 著作権に関する懸念
 - 出版社, 学会のポリシーの周知

メリットの強調(アメ)

- 無料でアクセスできるオンライン論文の被引用率
 - オフライン論文に比べて2.6倍多く引用されている
(Lawrence, Steve. "Online or invisible?" *Nature*. Vol.411, No.6837, p.521, 2001.)
自らの研究成果のインパクト(影響力)の向上
- 研究成果の長期保存・利用の保証
- 魅力ある付加価値サービス
 - ロチェスター大学の事例
 - Researcher Page(研究者個人用のワークスペース)の生成
 - <http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/foster/>

義務化(ムチ)

- 雇用者(大学当局)または助成金提供者が, 出版された論文のコピーをリポジトリにデポジットすることを求めた場合, どうしますか?

回答	OA著者	非OA著者
進んでデポジットする	83%	69%
やむを得ずデポジットする	4%	8%
デポジットしない	3%	3%
わからない	8%	18%

OA著者: OA誌上に論文を発表したことがある著者 非OA著者: OA誌上に論文を発表したことのない著者
Swan, A. & Brown, S.N. JISC/OSI Journal Authors Survey Report. (2004)による
http://www.jisc.ac.uk/uploaded_documents/JISCOAreport1.pdf

義務化の例

- クイーンズランド工科大学のEプリント・リポジトリへの登録に関するポリシー
 - http://www.qut.edu.au/admin/mopp/F/F_01_03.html
 - 「大学の構成員が公にした研究成果は、原則として全て図書館が運営するEプリント・リポジトリに登録しなければならない...研究成果には、論文(プレプリント, ポストプリント), 学位論文, 会議発表論文, 会議録の章などが含まれる...」(理事会承認)
- Registry of Institutional OA Self-Archiving Policies (eprints.org)
 - <http://www.eprints.org/signup/fulllist.php>

図書館員による代理登録

- Let us Archive it for you! (セント・アンドリュース大学)
 - http://eprints.st-andrews.ac.uk/proxy_archive.html
 - コンテンツをメール添付し, 必要最低限のメタデータを記述して担当者に送信
 - 図書館員が代理登録
 - さらに, 依頼があれば他のリポジトリやアーカイブ (例えば, arXiv.org) への登録も代行

著作権問題

- 研究者の著作権に対する反応
 - 完全無視派(自分で書いた論文は自由に再掲, 公開できる)
 - 極度の心配性(学会や出版社に著作権を譲渡しているので何もできない)
- 図書館員による周知活動が不可欠

雑誌と出版社のポリシー

	雑誌数	%	出版社数	%
	8,950	(100%)	111	(100%)
公式には認めない	674	8%	31	28%
プレプリントのみ認める	1,185	+13%(=92%)	7	+6%(=71%)
ポストプリントを認める	7,091	79%	73	66%

<http://romeo.eprints.org/>による (2005.3.21現在)

国内学術誌(学会)の方針

- ???
- 千葉大学による予備的調査
 - 39学会を対象
 - 母数が少ないので評価できないが...
 - 約半数は認める
 - 方針が未定との回答も多い
- 本格的な調査(と同時に学会側の意識の喚起)がのぞまれる

千葉大学でのコンテンツ獲得作戦

- グリーン誌に掲載された千葉大学の教員による論文を抽出
 - グリーン誌: ポストプリントのリポジトリ登録を許諾する雑誌
 - 対象出版社: AMS (アメリカ数学会), APS (アメリカ物理学会), Blackwell, Elsevier, Nature Publishing Group
 - 対象期間: 2002年~2004年
- 各教員に論文の電子ファイルの提供を依頼
- 図書館員が代理登録

結果

	論文数	割合
依頼対象	447	
電子ファイル提供	141	31.5%
登録可能な電子ファイル	65	14.5%

教訓

- 登録不可の電子ファイルのほとんどが、出版社版 (Publisher's Official Version)
 - 出版社のEJサイトに掲載された版
- グリーン誌の大多数は、著者最終版 (Author's Final Version)のみのセルフアーカイビングを認めている
 - 著者の手元にある査読済みの原稿
- 著者にとっての「著者最終版」の問題
 - わからない
 - 持っていない
 - 不完全な版を登録したくない

おわりに

□ SPARCの理念

- 学術コミュニケーションの主導権を商業出版社の手から学術コミュニティの手に取り戻す
- そのためには、研究者、学会、大学図書館の協調が必要

□ “Create Change”のための大学図書館のコミットメント

- 機関リポジトリの実践を通じて、研究者、学会との協調の道を探りながら、理念の実現をめざす